

2023年5月1日

全国大学国語教育学会
2023年度 学会通信 第1号

全国大学国語教育学会事務局

全国大学国語教育学会会員の皆様

各地で観測史上最も早い桜の開花・満開が報じられ、季節は新緑の5月を迎えました。会員各位におかれましては、年度当初の慌ただしい毎日にあって、ご清祥にお過ごしのことと拝察申し上げます。

さて、全国大学国語教育学会は2023年度より役員が新しくなりました。理事長のご挨拶と新体制の概要を、本通信にてお知らせいたします。併せまして、5月27日～28日に開催予定の島根大会第2次案内をお送りいたします。今後とも、よろしく願いいたします。

◆全国大学国語教育学会役員（2023年度～2025年度）

理事長挨拶

梅と楠。それぞれ低木と高木の代表格です。この二つの樹木を使った熟語に「梅の木学問」と「楠学問」があります。梅は育ちがよく、比較的早く成木となります。対して、楠は伸びが遅く、なかなか成木になりません。このことから、早熟するが大成しない学問のことを梅の木学問、成長は遅いが晩成する学問のことを楠学問と称するようになりました。楠にとっては実に誉な例えであり、梅にとっては不名誉ななぞらえといえましょう。

学問、研究にとっては高みこそが価値であるという考え方があります。頂点、最高峰などはこの考え方を反映した言葉です。ですが、この高みだけに価値を置く考え方は古いのではないのでしょうか。山高きがゆえに貴からずではありませんが、樹木のありようを評するとすれば、それぞれの特性を見極める必要があります。梅は、高さこそありませんが花と匂いというほかに代えがたい素晴らしさがあります。

国語教育学は、学問である以上、高みは大事です。しかし、それにもまして広がりも大切です。学ぼうとする人全てにその人なりの学びの現れがあり、その実態や原理を突き止めることを使命とする国語教育学ですから、さまざまに広がるありようにも大きな価値があると考えられるのです。

全国大学国語教育学会においては、会員である実践研究者、理論研究者が自分のアプローチで国語教育の内実や奥行き、枠組みを明らかにしていくことをめざしています。しかし、各自が思い思いの方向を向いたままでは、互いの価値はおろか、自分の価値すら見えてきません。同志として集い、論を示しあい、時にぶつけ合うことが必要です。学会という組織に所属して、互いの学問の自由を最大限に尊重できる約束事を作り、それを守り、成果を検討し合い、認め合う意味がそこにあります。

教員養成系大学・学部の教職大学院化が進みつつあります。ややもすると、これまで維持してきた国語教育学研究の足元が危うくなることも考えられます。危機感すら感じますが、「しまったと思ったら、しめたとと思え」（日本史の碩学上田正昭氏の言）のように何かの危機的な圧力を受けたならばそれを跳ね返すきっかけとしたいものです。

孤高の楠とは異なり、梅は孤独ではありません。梅園、梅林という言葉があるように仲間と集い、競って一つの価値を示します。私は、会員の皆様とともにこの全国大学国語教育学会を学問の豊かな花と匂いに満ちた学会にしていきたいと考えています。どうかよろしく願い申し上げます。

全国大学国語教育学会理事長（2023年4月～） 植山 俊宏

全国大学国語教育学会役員一覧

理事長	植山俊宏					
常任理事	奥泉 香 藤森裕治	甲斐雄一郎 細川太輔	児玉 忠 間瀬茂夫	坂口京子 山元隆春	住田 勝	寺井正憲
幹事	長田友紀	勝田 光	寺田 守			
監査	石田喜美	上山伸幸				
理事	全国区選出理事					
	足立幸子 桑原 隆 府川源一郎	植山俊宏 幸田国広 藤森裕治	長田友紀 児玉 忠 細川太輔	甲斐雄一郎 住田 勝 間瀬茂夫	河野順子 高木まさき 山元悦子	吉川芳則 鶴田清司 山元隆春
理事	地区選出理事					
北海道地区	佐野比呂己	内藤一志				
東北地区	小川雅子	藤井知弘				
関東地区	奥泉 香	中村敦雄	中村和弘			
北陸地区	佐藤多佳子	渡部洋一郎				
東海地区	丹藤博文	守田庸一				
近畿地区	羽田 潤	堀江祐爾				
中国地区	田中宏幸	富安慎吾				
四国地区	中西 淳	余郷裕次				
九州地区	上谷順三郎	河野智文				
	選挙管理委員会 上山伸幸(創価大学) 勝田光(幹事) 酒井雅子(玉川大学) 細川太輔(常任理事)					

第144回 全国大学国語教育学会(島根大会) プログラム

今大会は「[当日資料](#)」について、発表者および参加者に影響する重大な変更があります。
必ず、末尾の「[参加にあたっての留意点\(重要\)](#)」をご覧ください。

1. 日時 2023年5月27日(土)～5月28日(日)(公開講座は5月14日(日)に開催)
2. 会場 島根大学 松江キャンパス(〒690-8504 松江市西川津町1060)
3. 共催 国立大学法人島根大学
4. 参加費

事前申込(5月8日まで受付)		直前申込(会期前再オープン)	
(会 員)	5,000円	(会 員)	6,000円
(学生会員)	3,000円	(学生会員)	5,000円
(非 会 員)	6,000円	(非 会 員)	6,000円
(学生非会員)	4,000円	(学生非会員)	5,000円

※当日、現金でのお支払いはできません。

※領収書については、「[発表・参加申込システム](#)」の「領収書自動発行」から発行することができます。

※参加申し込みの詳細は、[一次案内](#)をご覧ください。

※「公開講座(オンライン/5月14日開催)」のみの参加は無料になります。

5. 日程

第1日 5月27日 (土)		第2日 5月28日 (日)	
8:45	受付	9:00	受付
9:30	自由研究発表	9:30	課題研究発表
12:20	昼食	12:00	昼食
12:55	理事会	12:30	若手研究交流企画
14:00	総会	13:40	自由研究発表 ラウンドテーブル
15:10	シンポジウム	16:30	
17:40			

公開講座は5月14日(日)14:00-17:00 にオンラインで実施します。

[事前申し込み](#)が必要です。

大会広報サイト <https://sites.google.com/view/jtsj2023shimane/>

6. プログラム

【第1日 5月27日(土)】

◎自由研究発表 9:30～12:20 発表20分 質疑応答10分 接続時間5分

A会場 司会: 児玉忠(宮城教育大学) 中村和弘(東京学芸大学)
教養講義室棟2号館401号室

- | | | |
|-----|--|---|
| 1-1 | 書くこと教育は「書けなさ」と方法をどう繋げてきたか | 永井 ほんり(広島大学
大学院・院生) |
| 1-2 | 「自己説明文」を書くことに関する研究 ー小学4年生の自分
自身についての理解と表現に着目してー | 成家 雅史(相模女子大
学) |
| 1-3 | 聞き取りにおける手書きメモに関する考察(2) ー小4と中1の
質的比較を中心にー | 鈴木 慶子(長崎大学)
宮本 友弘(東北大学) |
| 1-4 | 中学校における意見文作成のカリキュラム開発 | 辻村 重子(京田辺市立
大住中学校)
梶原 悠平(八幡市立男
山第二中学校) |
| 1-5 | 参加者のスタンスとしての「手紙を書く」学習活動 ーテキスト
と読者を結ぶ回路ー | 佐藤 佐敏(福島大学)
田川 朗子(田村市立大
越小学校) |

B会場 司会: 奥泉香(東京学芸大学) 羽田潤(兵庫教育大学)
教養講義室棟2号館402号室

- | | | |
|-----|---|--|
| 2-1 | ICT教材を活用した国語教育の在り方 | 伊東 美香(城西大学附
属城西中学高等学校) |
| 2-2 | 高校国語科におけるICTを活用したSAMRモデルにもとづく
SNS世代の「打ち言葉」に着目した実践的研究 | 小野寺 亜希子(東京都
立八王子東高等学校) |
| 2-3 | 動画を活用した短歌鑑賞指導の開発と効果の検討 | 石津 恒哉(西宮市立苦
楽園中学校)
増永 雄一郎(宝塚市立
末広小学校) |
| 2-4 | アダプテーション作品としての『羅生門』 ー〈衣服の与奪〉をめ
ぐる説話・小説・映画ー | 友田 義行(甲南大学) |

2-5 高校生(オンライン)「文学」模擬裁判選手権の取組 —ことばを通して人間を考える、「イベント」としての国語教育— 札埜 和男(龍谷大学)

C会場 司会: 藤森裕治(文教大学) 中村敦雄(明治学院大学)
教養講義室棟2号館404号室

3-1 国語科の話し合い学習における「学びへの参加」の考察 —
発話に困難のある学習者の視点から— 伊井 健(関西学院大学
大学院・院生)

3-2 読みに困難を抱える生徒を対象としたアセスメントの検討 —
米国におけるAELPの評価問題とその開発プロセスを中心
に— 古賀 洋一(島根県立大
学)

登城 千加(島根県立江
津高等学校)

富安 慎吾(島根大学)

中井 悠加(島根県立大
学)

間瀬 茂夫(広島大学)

3-3 インクルーシブな読解指導 —国語教育学と特別支援教育の
間に広がる「空白」地帯を考える—

岩崎 直哉(富山国際大
学)

河崎 美香(富山国際大
学)

3-4 外国人生徒による受動文の文構造理解 —教科学習におけ
るつまずきを探る—

竹本 理美(筑波大学非
常勤研究員)

新山 聖也(筑波大学非
常勤研究員)

澤田 浩子(筑波大学)

3-5 生徒が主体的に関与する授業を展開するに至った国語科教
師の経験内容へのナラティブ・アプローチ —外国につながる
生徒を指導する教師の語りの分析から—

丸山 範高(和歌山大
学)

D会場 司会: 甲斐雄一郎(文教大学) 小川雅子(元山形大学)
教養講義室棟2号館501号室

4-1 共に生きる未来をひらく生徒の青春エスノグラフィー —『竹取
物語』の演劇的創作を通して—

Yang Lihwa(慶應義塾
大学大学院・院生)

横浜市立豊田中学校)

4-2 古典との対話を生み出す授業の開発研究 ―古典との対話を通じて、いかに自分のテキストを生み出すか― 武久 康高(高知大学)

4-3 戦後高等学校国語教科書における『今昔物語集』 井浪 真吾(岡山理科大学)
池田 匡史(岡山大学)

4-4 クリティカルシンキング(吟味思考)へと導く古典(漢文)の学習 ―高校生が分析した『史記』に対する大学生の評価を通して― 大西 光恵(立命館大学)

4-5 中等教育における古典学習 ―学習指導要領が目指す方向性と教材分析の検討から― 西 一夫(信州大学)
杉本 直美(日本体育大学)

E会場 司会:幸田国広(早稲田大学) 堀江祐爾(神戸女子大学)
教養講義室棟2号館503号室

5-1 西郷文芸学の可能性と課題 ―「いい子」の抑圧の解放の視点から― 南 咲貴子(関西学院大学大学院・院生)

5-2 教育科学研究会・国語部会の読解指導について ―宮崎典男『読み方指導 その指導過程をめぐって』を例に― 吉田 雅昭(帝塚山大学)

5-3 芦田恵之助の「読み方教授」における「わざ」の構成原理 上月 康弘(松本大学)

5-4 昭和40年代における言語機能主義批判に関する考察 皆尾 賛(広島大学大学院)

5-5 昭和10年前後の言語教育重視の潮流と語法・文法への着目 ―小学校国語教育を中心に― 松崎 史周(国士舘大学)

F会場 司会:吉川芳則(兵庫教育大学) 山元隆春(広島大学)
教養講義室棟2号館504号室

6-1 文学テキスト批評における妥当性の再検討 ―解釈学的転回以降を視座として― 林 一晟(広島大学大学院・院生 福井県立鯖江高等学校)

6-2 中学校国語科における論理的文章を「書くこと」の指導研究 ―論理的文章の具体例記述の進歩― 西山 明人(東京農業大学第三高等学校附属中学校)

- 6-3 論理的文章を「書くこと」の授業の分析と評価の一考察 西山悦子(東京都台東区立東泉小学校)
- 6-4 小学校国語科・論理的文章を「読む」授業の開発 長谷川祥子(青山学院大学)
西山悦子(東京都台東区立東泉小学校)
- 6-5 「ことばにならない何か」のための「論理」—説明文学習の切実さとは何か— 佐藤宗大(日本女子大学)

G会場 司会:住田勝(大阪教育大学) 丹藤博文(愛知教育大学)
教養講義室棟2号館601号室

- 7-1 縁意識を取り入れた『おにたのぼうし』の実践報告 雷民澁(広島大学大学院・院生)
丸田健太郎(広島大学附属小学校)
- 7-2 宮沢賢治『注文の多い料理店』の授業実践を掘り起こす 一子 子どもの〈困った質問〉に向き合う文学の授業／〈語り手〉を問う 教材研究— 黒瀬貴広(甲州市立松里小学校)
- 7-3 佐藤瑞彦による国語科作文教育「創作」の実践と思想 一組 合教会的キリスト教信仰の影響を探る— 深田愛乃(慶應義塾大学大学院・院生)
- 7-4 国語科教員養成の初期段階における「読むこと」の指導開発の試み(2) 一高等学校「文学国語」に対応させて— 井口あずさ(甲南女子大学)
- 7-5 「たずねびと」(朽木祥)教材研究ノート 一C. ボグラ「ヒーローズ・ジャーニー」を手がかりとして— 住田勝(大阪教育大学)

◎昼食 12:20～12:55(※理事・シンポジストの先生方には昼食を用意します)

◎理事会 12:55～13:55 教養講義室棟2号館603号室

◎総会 14:00～15:00 大学ホール

◎シンポジウム 15:10～17:40 大学ホール
授業場面における国語科教科内容の生成

コーディネーター 富安慎吾(島根大学)
登壇者 羽島彩加(広島大学附属小学校)
青山由紀(筑波大学附属小学校)
守田庸一(三重大学)

シンポジウムでは説明的文章教材「固有種が教えてくれること(今泉忠明)」(光村図書『国語』五、2019)を取り扱います。会場でも抜き刷りを配付しますが、事前に内容をご確認いただけると、参加しやすくなります。

【第2日 5月28日(日)】

◎課題研究発表 9:30～12:00 大学ホール

国語教育学研究を見通す② 国語科内外から見直す、わたしたちの役割

コーディネーター 池田匡史(岡山大学)

登壇者 藤森裕治(文教大学)

奥村好美(京都大学)

山田秀和(岡山大学)

◎昼食 12:00～13:40(※課題研究発表の先生方には昼食を用意します)

◎若手研究交流企画 12:30～13:40 教養講義室棟2号館401号室

◎自由研究発表 13:40～16:30 発表20分 質疑応答10分 接続時間5分

H会場 司会:田中宏幸(安田女子大学) 富安慎吾(島根大学)

教養講義室棟2号館402号室

8-1 中学生の生活記録ノートに対する認識 —提出率100%を目指した実践的研究— 村田 真樹(広島市立安佐中学校)

増永 雄一郎(宝塚市立末広小学校)

8-2 中学校「書くこと」における教科横断的な思考力の育成 —1年生から2年生にかけての授業実践を通して— 鈴木 佑亮(ベネッセ教育総合研究所)

小野塚 若菜(ベネッセ教育総合研究所)

藤井 泉浩(明星中学校・高等学校)

8-3 作文単元における学習意欲の要因分析 —トップダウン型とボトムアップ型の授業比較を通して— 高井 太郎(宇都宮大学)

8-4 文章作成技術の転用に関する文献 佐渡島 紗織(早稲田大学)

I会場 司会:長田友紀(筑波大学) 河野智文(福岡教育大学)

教養講義室棟2号館404号室

9-1 対話による葛藤をもたらす小学校国語科授業の研究 —貧困家庭を生きる子どものことばの学びの観点から— 森川 蓉子(関西学院大学大学院・院生)

9-2 相反する関係性の中のコミュニケーションの困難さとの出会い 金 志唯(広島大学・院生)

- 9-3 話し合いによる説明的文章の社会的文脈からの理解過程 — 野中 太一(暁星小学
小学校3年生「合図としるし」の実践を通して— 校)
- 9-4 話し合いプロセスの共有方法の違いが話し合いの進行にどう 北川 雅浩(熊本大学)
影響するか —小学校3年生を対象とした調査実践の分析を
もとに—
- 9-5 話し合いを振り返る指導方法の研究 —「文字」「音声・文字」 浅井 哲司(香川大学)
「映像」教材による学習者のメタ認知の違い— 長田 友紀(筑波大学)

J会場 司会:間瀬茂夫(広島大学) 住田勝(大阪教育大学)
教養講義室棟2号館501号室

- 10-1 帯单元によるプレゼン演習の可能性 —「書き換え」の機会 齋藤 隆彦(神戸親和大学)
として—
- 10-2 日中の中学生が書いた「論語」のエッセイに関する比較研 CHEN XIN(筑波大学大
究 —章句の選択とエッセイの特徴を分析対象に一 学院)
細田 広人(筑波大学附
属中学校)
- 10-3 読みやすい日本語を組むための教育の提案 藪 哲郎(奈良教育大
学)
- 10-4 接続表現の組み合わせによる文章構成に関する生徒の気 安部 朋世(千葉大学)
づき —譲歩表現「A確かにBしかしC」を例に一 橋本 修(筑波大学)
田中 佑(文部科学省)
永田 里美(明星大学)
西垣 知佳子(千葉大
学)

K会場 司会:佐野比呂己(北海道教育大学) 府川源一郎(横浜国立大学)
教養講義室棟2号館503号室

- 11-1 教科書における「他への活用を促す振り返り」—平成14年 出島 佑莉(福島大学大
度版から令和3年度版の経年調査から— 学院・院生)
- 11-2 教科書を探究する「現代の国語」実践 濱野 天司郎(大阪府立
水都国際高等学校)
- 11-3 柳田国男監修高等学校国語教科書における单元「紀行」 佐野 比呂己(北海道教
育大学)

11-4 大学初年次における言語教育のあり方に関する本質的考察 松村 一徳(大阪電気通信大学)

11-5 「国語科教育学の原理的考察(五)―「国家」を中心として― 望月 善次(元岩手大学)

L会場 司会: 足立幸子(新潟大学) 余郷裕次(鳴門教育大学)
教養講義室棟2号館504号室

12-1 相対立する文学教材の比べ読み学習による読みの推進 板東 俊明(姫路市立中寺小学校)

12-2 中学校の小説の授業における真正の学習の成立 ―「故郷」を中心に― 中山 莉麻(広島大学大学院／京都教育大学附属桃山中学校)

12-3 「解釈」の深まりを目指し、「問い」の質的向上に着目した読みの学習指導に関する研究 西村 信作(尼崎市立立花南小学校)

12-4 読者想定法によるインターネットの新聞記事を読むことの指導 足立 幸子(新潟大学)

M会場 司会: 山元隆春(広島大学) 羽田潤(兵庫教育大学)
教養講義室棟2号館601号室

13-1 伝記教材「宮沢賢治」の読みの可能性 ―複数のメディアを対象として― 金川 麻奈未(兵庫教育大学・院生)
鶴谷 拓真(兵庫教育大学・院生)

13-2 初読後の創作を起点とする「読むこと」の学習指導 ―アダプテーションの解釈形成過程への影響― 石原 雅子(筑波大学大学院・院生)

13-3 読むことの学習評価における物語性の構築 木村 穂乃香(広島大学大学院・院生)

13-4 米国PARCC型の情動的テキストを対象とする総括的評価の検討 ―高等学校段階の回答の分析を中心に― 村井 隆人(大阪教育大学)

13-5 読むことの学習評価につながる理解方略指導論の検討 ―Beers & Probst(2017)Disrupting Thinkingを中心に― 山元 隆春(広島大学)

N会場 司会: 植山俊宏(京都教育大学) 坂口京子(静岡大学)
教養講義室棟2号館603号室

- | | | |
|------|--|---|
| 14-1 | 高等学校国語科におけるグロースマインドセットの可能性 | 太田 悠斗(東京学芸大学教職大学院・修了生)
田巻 上総(埼玉県立春日部工業高等学校) |
| 14-2 | 教科の学びを社会につなぐ国語科CRメソッドの開発(2) — 授業分析から見るメソッドの可能性と課題— | 澤口 哲弥(神奈川大学) |
| 14-3 | 主体化する国語科授業の実証的研究の構想 —国語学習サイクルの効果を中心に— | 香月 正登(梅光学院大学)
白坂 洋一(筑波大学附属小学校)
古沢 由紀(大阪市立柏里小学校) |
| 14-4 | 学習者が持つ国語学習への関わり意識の実態調査 —ownershipに着目した单元末の振り返り活動の分析を通して— | 菊田 尚人(山形大学) |

◎ラウンドテーブル 13:40~16:30(終了時間は最長時間です)

R会場(教養講義室棟2号館502号室)

国語科における音声言語指導の内容とその実践

コーディネーター

山室和也(国土館大学)

登壇者

白勢彩子(東京学芸大学)

中村和弘(東京学芸大学)

宮本淳子(東京学芸大学)

大村幸子(お茶の水女子大学附属小学校)

土屋晴裕(東京学芸大学附属大泉小学校)

松崎史周(国土館大学)

◎公開講座(5月14日(日)14:00~17:00、オンライン)

ICTと国語科授業実践②—「マンガ」で「読むこと」の力をつける—

コーディネーター

羽田潤(兵庫教育大学)

登壇者

大久保紀一郎(京都教育大学)

岸圭介(早稲田大学系属早稲田実業学校初等部)

学会参加とは別に[参加申し込み](#)が必要です。

【参加にあたっての留意点(重要)】

[当日資料について]

一次案内でご案内したとおり、今大会の当日資料は原則的に「[オンライン配布](#)」です。

[参加者の方]

- 当日資料は、後日メールでお知らせする「資料サイト」に掲載します。各自ダウンロードして参照してください。
- このため、大会への参加には、**PCもしくはタブレット端末を持参されることをおすすめ**します。
- ネットワークについて、大会校はEduroam(ご所属校が対応している必要があります)が利用可能ですが、大人数が接続した際の安定性は確認しておりません。可能であれば、資料は事前にダウンロードしていただくか、モバイルWi-Fiなどをご持参ください。
- 総会・シンポジウム・課題研究の会場である「大学ホール」は、各机にコンセントがあります。
- 発表者の方には、紙の資料についても30部ご用意いただきますが、これはオンライン配布の資料が使えない場合のバックアップです。

[発表者の方]

- 当日資料の配付は必須ではありません。
- 当日資料は、原則として「オンライン配布」です。PCやタブレット端末で表示されることを前提にして作成してください。資料に掲載するサイトにはパスワードを設定しますが、さほど強力なパスワードではありません。学習者等の個人情報や著作権に関する取り扱いにはご注意ください。
- 当日資料は、5月26日(金)までに、下記のURLからPDFでご投稿ください。その際、ファイルの頭に「**1-1** 発表資料」など、プログラムに記載されている発表順を記載してください。
<https://onl.la/BQ5vuNF>
- 投稿した資料については、直接修正することはできません。ファイル名の末尾に(修正版)などをつけて再度投稿してください。
- 紙の当日資料についても**30部を作成し**、発表当日、発表会場(教室)までお持ちください(端末をお持ちでない参加者のためのものです)。
- 大会事務局では印刷などの対応は一切致しません。また2日目の資料を1日目にお預かりすることもできません。

[要旨集について]

事前に紙媒体の『発表要旨集』をご注文いただいた方については、大会当日までにご登録いただいた住所に直接送付される予定になっております。

また、『発表要旨集』につきましては、上記に加えて大会申込者全員にPDF版をダウンロードしていただけるようにする予定です。ダウンロードの方法につきましては改めてメールにてご連絡いたします。

6. お問い合わせ

富安慎吾(島根大学) E-mail: tomiyasu@edu.shimane-u.ac.jp

7. 会場案内図

交通手段について

松江駅から大学までは、公共バスで15分～20分、タクシーで10分程度です。

公共バスの本数が少ないため、学会用の貸し切りバスを、1日目朝8:15-9:30、2日目朝8:30-9:30の間、往復運行いたします。

貸し切りバスの発着場は、松江駅南口から道を渡った先50mほどにあるユニバーサルホテル横になります([Googleマップ](#))。通常の公共バスの乗降場(北口)とは反対の位置になりますのでご注意ください。当日は、松江駅にて、アルバイトの学生がご案内いたします。

公共バスをご利用の場合は、以下の便をご利用ください。

- 1番乗り場 北循環線内回り 島根大学前降車
- 2番乗り場 川津行 島根大学前降車

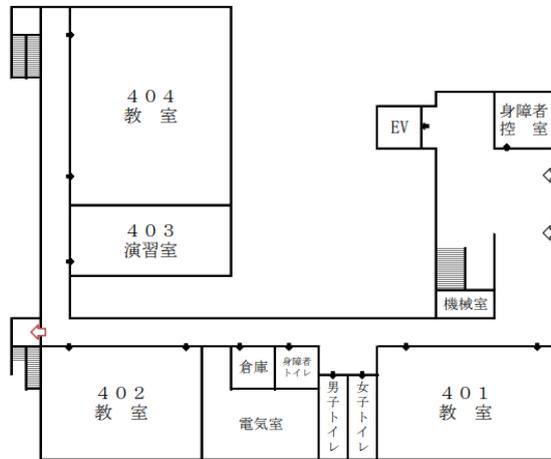


大学構内

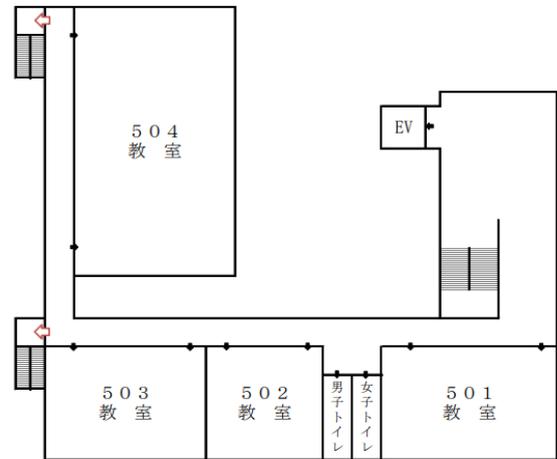
正門からまっすぐ北にお進みください。



教養講義室棟 2号館 1階・2階



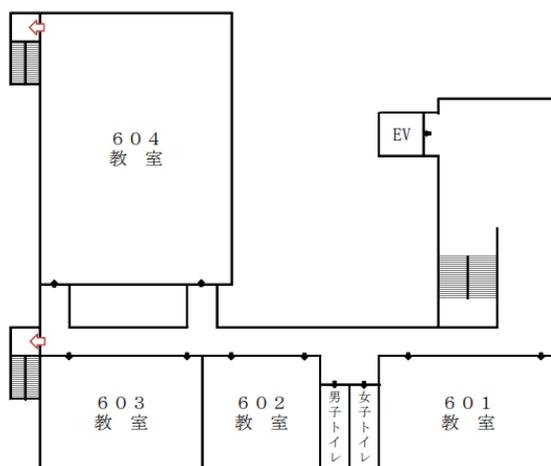
1階



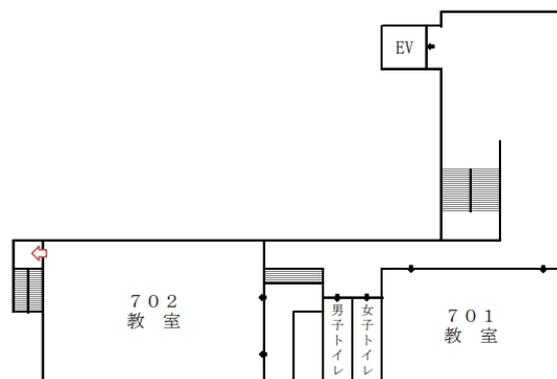
2階

部屋割2

教養講義室棟 2号館 3階・4階



3階



4階

- 教養講義棟2号館は、4XX教室が1階、5XX教室が2階、6XX教室が3階、7XX教室が4階にあります。
- エレベーターは一箇所にしかありません。
- 構内にはゴミ箱が少ないため、食事時に出るごみはできるだけお持ち帰りいただくようお願いいたします。なお、ご注文いただいたお弁当の空き箱につきましては、会場で回収させていただきます。どうぞご協力くださいますようお願い申し上げます。